

水稲疎植栽培の刈り取り時期は標準栽培と変わらない

福島県農業総合センター 会津地域研究所

1 部門名

水稲—水稲—栽培密度、品質

2 担当者

鈴木忠弘、肥田野善隆、新妻和敏、川島寛、山内敏美

3 要旨

会津平坦においてコシヒカリを用いて疎植栽培(畦間×株間、30×30cm)と標準栽培(30×16cm)の出穂期からの積算気温からみた刈り取り時期で品質に違いがあるかどうかを検査し、両者とも変わらないことを確認した。

- (1) 疎植栽培と標準栽培の出穂期は1~2日の差である(表1)。
- (2) 2012年における標準栽培の基肥0.3kg/a区は㎡あたり粒数が少なく、早期に青未熟粒が低下し成熟期がやや早くなった(表1、図1)。
- (3) 疎植栽培と標準栽培の整粒割合は、両者とも積算気温が1150℃以降に低下する。年次間では、2012年において整粒割合の顕著な低下がみられた。両者間には大きな差はみられなかった(図2、3)。
- (4) 未熟粒割合は年次間で積算温度による低下の早遅はみられたが、疎植栽培と標準栽培での差はみられなかった(図2、3)。
- (5) 胴割粒割合は、2012年で1150℃以降に急増しているが、2013年においてはそのような現象はみられなかった。胴割粒の発生割合についても疎植栽培と標準栽培間で大きな差はみられなかった(図2、3)。
- (6) 以上から、疎植栽培と標準栽培の出穂期からの積算気温からみた刈り取り時期はほぼ同じと考えられた。

表1 標準と疎植栽培の出穂期と葉色値、成熟期と㎡当たり粒数(2012~2013年)

年次	栽培様式 様式区分	畦間×株間 (株/㎡)	基肥窒素量		追肥の有無	出穂期 (月/日)	同左 葉色値 (SPAD502)	成熟期 (月/日)	㎡あたり 粒数 (百粒/㎡)
			素量 (kg/a)	有無					
2012年	疎植	30×30	0.3	無	8/11	30.4	9/20	336	
			(11.1)	0.5	無	8/11	31.0	9/22	345
	標準	30×16	0.3	無	8/9	28.2	9/19	298	
			(20.8)	0.5	無	8/9	28.7	9/20	364
2013年	疎植	30×30	0.3	無	8/11	32.4	9/24	312	
			(11.1)	0.3	有	8/11	37.3	9/24	371
	標準	30×16	0.3	無	8/10	30.7	9/22	309	
			(20.8)	0.3	有	8/10	35.3	9/24	365

※追肥は減数分裂期に窒素0.2(kg/a)

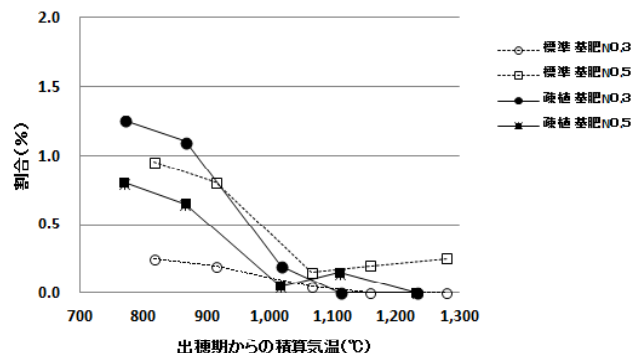


図1 刈り取り時期と青未熟割合(2012年)
(1.8mm篩で選別)

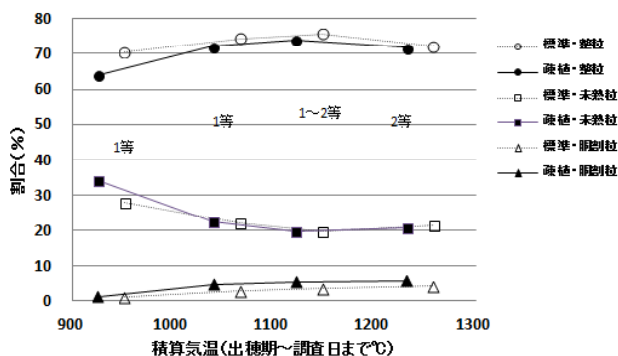


図3 刈り取り時期と米質(整粒・未熟粒・胴割粒の割合)
※(2013年 1.8mm篩で選別)

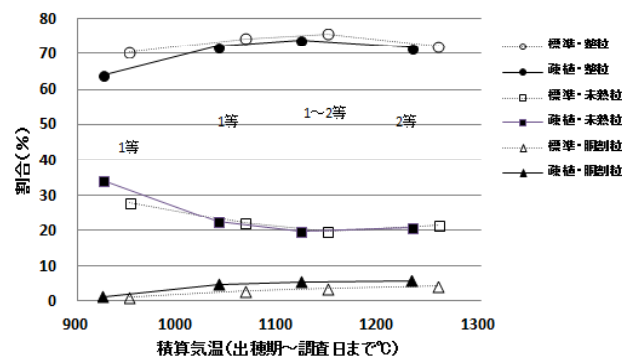


図3 刈り取り時期と米質(整粒・未熟粒・胴割粒の割合)
※(2013年 1.8mm篩で選別)

注) 両年とも共通区の基肥窒素量0.3kg/aの追肥無区を図示した。品種はコシヒカリ。2012年は穀粒判別器((株)ケット科学研究所、RN-300)、2013年は静岡製機RS-2000Xを用いて調査。図中の1~2等は検査等級。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成24~25年度
- (2) 研究課題名 会津地域における疎植栽培法の確立(刈り取り時期)
- (3) 参考となる成果の区分 発展見込み

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成24、25年度農業総合センター試験成績概要